

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成29年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されております。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成29年11月28日（火）14時00分～15時40分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

白井多賀子委員，大月光司委員，陶慶一委員，関実枝子委員，染川香澄委員，田切美智雄副委員長，田上公恵委員，服部征夫委員，松下博充委員，水嶋英治委員長，山口武平委員

※事務局出席者

横山一己館長，小川均参事兼副館長，宮崎薫副参事兼管理課長，武田順企画課長，稲葉伸一郎教育課長，久松正樹資料課長，泉水正和主査，小池涉首席学芸員，池澤広美首席学芸員，小幡和男首席学芸員，山中久司主査，中里賢係長，内方陽子主任，鶴沢美穂子副主任学芸員，松浦卓也主事

5 議事概要

(1) 議案説明（事務局）

議題

- (1) 平成29年度前期事業の報告について
- (2) 平成29年度後期事業計画について
- (3) 予算・決算などについて
- (4) その他

(2) 質疑・意見交換

○議題 (1) ～ (4) について

A委員：

入館者 1000 万人を達成されたとのこと、本当におめでとうございます。少し前にニューヨークに調査に行っていました。ニューヨークの自然史博物館では、スタッフが 1000 人以上いて驚きました。こちらは少ない人数で本当に良く頑張られていると思います。これから常設展示室のリニューアルを考えられているようですが、私は滋賀県立琵琶湖博物館のリニューアルにかかわっていました。やってみるととても大変で、職員の方も苦労されていました。こちらでも無理のないように進めていただければと思います。

B委員：

事務局から説明があった中に、サメ展のポスターについてTX（つくばエクスプレス）から図案変更の提言があったとのことでしたが、どのようなことでしょうか。入館者が増えているのは、職員の皆さんの努力あってのことだと思います。台東区は東京 23 区の中で、10km² と一番小さい。自然も多くないので、こちらの博物館はとても広く、自然豊かなのがとても羨ましく思います。台東区の小学生も来館しているとのことでしたが、子供達が広々とした中で自然と触れ合えるのは素晴らしいことです。県外の人にも、さらにアピールしていただきたいです。展示を拝見しましたが、見せ方がとても上手いと思います。また、触ったり、手で触れたりできる、これは大事なことです。ここは、知ればまた来たいと思う所だと思います。リピーターが増える工夫を、企画展も含めてさらにしていただきたいと思います。

事務局：

サメ展のポスターの変更についてですが、車内等に掲示を依頼するポスターは事前協議を行っています。その段階で、ポスターに載っているサメの剥製の写真が、見る人によっては「怖い」と感じられることも考えられるので、当初案のものでは駅構内や車内に「掲示することは難しい」とのTXの担当者の判断だったため、急ぎキャラクターに置き換えたものを作成しました。職員の手作りでしたが、これはこれで良かったのかなと思っています。

C委員：

入館者1000万人達成を、大変嬉しく思います。日頃の職員の皆さんの努力の賜だと思います。入館者が増加しているのも素晴らしいですし、県外からの入館者が増えているのも素晴らしいです。お伺いしたいのは、外国人の見学者の動向です。増加しているのか、何か対策をされているのかお伺いしたいと思います。また、これは予算などの関係で難しいかもしれませんが、企画展ごとに音声ガイドがあるといいのではないのでしょうか。笠間の陶芸美術館では、IBS（茨城放送）の協力で、県内の高校生に録音してもらって音声ガイドを作成し、とても好評でした。

事務局：

外国人の誘致は積極的には行っていませんが、館内を見ていると中国人の団体が多く見られます。ブラジル人も多いです。筑波大の学生が外国人を案内してきているのも見受けられます。当館では、中国語のパンフレットもスペイン語のパンフレットも用意しています。意外と楽しんでくれているようでした。音声ガイドは英語のみしか用意がありません。Wi-Fiについては導入の準備を進めていますが、できるだけ多くの言語に対応したいと思います。色々やりたいことはありますが、早急にやるには人手不足な状況です。

D委員：

資料を見ると、昆虫展の入館者数が8月に前年度の1.5倍になっています。これはなぜなのでしょう。人を引き寄せた何かがあるのだと思います。ぜひ深掘りしていただきたいと思います。その他については、ソフト面の充実をもっともっとやっていただきたいと思います。見せ方の視点を多様にしたらどうでしょうか。ナイトミュージアムは考えてみても良いのではないのでしょうか。人の配置や施設管理に関わることなど課題も多いと思いますが、夜の視点は興味を引きます。ぜひご検討をお願いします。

事務局：

8月に入館者が増加した理由はいろいろと考えられますが、今年は雨天の日が多かったので、天候不順が一番の理由ではないかと思います。昆虫展では、リピーターを増やす工夫をしたので、それも理由かもしれません。ご提案のナイトミュージアムについては、今年

はホテルの観察会などを実施しました。しかし、夜間に実施するホテルの観察会では、30人の参加者に対してスタッフが20名程度必要で、ボランティアにも手伝ってもらっています。何回でもやりたいですが、人員の関係で難しいのが現状です。

E委員：

私からは学校関係のお話をさせていただきます。遠足では、雨が降ったときのお昼の場所が問題で、受け入れてくれる所はあまりありません。こちらでは、雨天のみの予約でも受け入れてくれるので、非常にありがたいです。遠足の一大拠点になっています。また、小学3年生は昆虫の学習がありますが、昆虫を学んだあと夏休みに入るので、夏休みに昆虫展を行ったのはジャストタイミングでした。中1フリーパスは良い取り組みです。自分の子供が近くに住んでいたら「行かせたい」と思います。底辺を拡大する取り組みであると思います。さらに、博物館は若手の教職員の研修の場にもなります。自然科学系の研修は難しいのですが、ここは来るだけで個人の研修になります。インストラクターズルームで相談をすることもできます。お願いしたいことが一つあります。学校向けの貸出教材がありますが、授業をやる時期が同じなので、借りたい希望が同じ時期に重なる傾向があります。少しでも増やしてもらえたらと思います。

事務局：

中1フリーパスは、配付数に比べて来館者数はそれほど多くありません。実は、効率の面から考えて中止も考えていたのですが、そういったご意見があることをふまえて。もう一度検討してみたいと思います。

事務局：

教育用資料貸出は、昨年度44件あったところ、今年度で既に40件あり、昨年度より増えています。早急に個数をふやすことは厳しいですが、貸出教材を増やせるように努力を続けていきます。

議長：

教育委員会でアンケートを取って、これだけ要望があるということを数値で示すと、行政に働きかけができるのではないのでしょうか。

F委員：

委員になってから、なるべくこちらに足を運ぼうと思っています。8月31日に来館したとき、あまりの混雑に驚きました。駐車場が不足していると感じましたが、何か対策ができないのでしょうか。混雑時に、バスでピストン輸送したり、少し遠い所に広い駐車場を借りられたりしないのでしょうか。また、私は土浦市の宍塚大池自然と歴史の会の活動に参加

していますが、こちらの博物館から自然観察会の講師として春には植物で小幡先生が、夏には昆虫で久松先生が来てくれました。学術活動の還元として、とても素晴らしいことだと思います。

事務局：

ゴールデンウィークには、通常の駐車場に加えて臨時的に駐車場を借りていますが、混雑する日は年間を通してごく僅かなので、これ以上駐車場を増やすのはなかなか難しいと思っています。

事務局：

今年度は、初めての試みとしてゴールデンウィークに無料のシャトルバスを運行しました。全く宣伝していなかったのですが、まあまあ利用してくれていました。また続けていきたいと思っています。できれば混まない時期の来館者を増やすことができれば良いのですが・・・

G委員：

私からは、子ども会はどのくらい来ているのか、子ども会の利用についてお伺いしたいと思います。また、県内はどのくらいの比率で、地域別で来ているのでしょうか。県南・県西地区からの利用がやはり多いのでしょうか。県北・水戸の割合はどの程度でしょうか。

事務局：

子ども会での利用は、今年度は10件来ています。子ども会の引率は有志ですし、引率の方は大変なのかもしれません。利用団体の地域は、県南・県西地区がほとんどです。最近では、水戸・鹿行からも増えています。ちょっと遠い方が良いのか、遠足は遠出する傾向にあるようです。特に、鹿行からは、圏央道の開通もあり、予約が増えています。昨年度は年間を通じて23校でしたが、今年度は、9月末の時点で既に23校来ていますので、確実に増えると思います。

H委員：

安全面に留意して、防犯カメラを設置したのはとても良かったと思います。博物館を一步出れば、外は林や池もありますので。私から伺いたいのは、ボランティアの学生はどのくらいいるのかということです。若い力を借りるとよいのではないのでしょうか。

事務局：

当館にはジュニア学芸員の制度があり、毎年10名程度が登録しています。中～高校生の6年間活動することができ、その後も継続する学生が多くいます。毎回イベントの度に連絡

をして、館のイベントのお手伝いをしてもらっています。ボランティアの登録は、18歳以上ですが、若い方の登録は極めて少ないです。

事務局：

ジュニア学芸員は、昨年度は、継続する学生を入れて51名の登録がありました。若い世代のボランティアについては、現在、大学生（研修中）が1名、20代（研修中）が数名います。やはり50～60代がメインです。

I 委員：

入館者数が順調に増えているのは良いことですが、今後も着実に入ってもらう努力をするべきだと思います。努力して、たくさん来てしまった時は仕方がないと思います。その時は、県にサポートしてもらえると良いのではないのでしょうか。アンケートについては、実際に博物館がどのように評価されているかを調べておくが良いと思います。子供はどこが面白いと言っているのか、一歩踏み込んで報告がほしいです。団体の学校ごとにアンケートをとって見てはどうでしょうか。また、収蔵庫の問題はどうなっていますでしょうか。

事務局：

アンケートは企画展やイベント毎にとっていて、結果は毎回報告が来ます。「大変よかった」と書いてあるものがほとんどです。収蔵庫については、内部で検討委員会を新たに立ち上げて検討しています。大きな予算を必要とする計画なので、すぐにはなかなか難しい状況です。

事務局：

アンケートとは別に、来館した学校から感想文が送られてくることがあり、学校の了解が得られれば、ディスカバリープレイスに置いて皆さんに見ていただいております。

議長：

博物館は20周年を越えて、20代になりました。20代が一番活躍できる時期です。20代になって何ができるかが重要なのではないのでしょうか。茨城は魅力度について言われることはありますが、まだまだポテンシャルがあります。県全体のポテンシャルを考えていくと良いのではないのでしょうか。水戸には近代美術館、歴史館、笠間には陶芸美術館、大洗には水族館、北茨城には五浦美術館、つくばにも美術館があります。県内の文化施設の横の連携が大事なのではないのでしょうか。お答えは必要ありません。